

# メッセージ

～広島県の未来を担う10代・20代の皆さんへ～



こんにちは，広島県知事の湯崎です。  
 皆さんは，献血をされたことがありますか？  
 実は今，献血者数が減少しています。

人口減少・少子高齢化の進行などにより，ますます血液不足が心配されていますが，特に，若い世代，10代・20代の献血者の減少が顕著です。昨年度，県内の20代の献血者は，同世代人口の約7.4%でした。しかし，言い換えれば，今後，多くの皆さんが献血に参加していただける可能性があるとも言えます。

献血は命を救うボランティアです。献血は人の為になる，誰かの為になる。それはきっと皆さんの為にもなることでしょう。

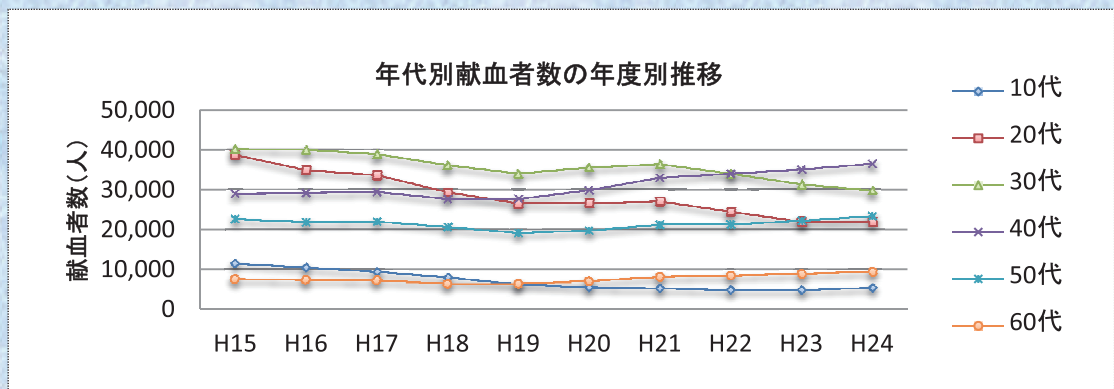
‘献血してみよう’という，ちょっとした勇気が，多くの命を救います。患者さんが日々安心して暮らせるよう，また，少しでも多くの命を繋ぎとめられるよう，若い皆さんの力で，県内の輸血医療を支える一翼を担っていきましょうではありませんか！！

広島県知事 湯崎 英彦

## 【参考】 広島県健康福祉局薬務課

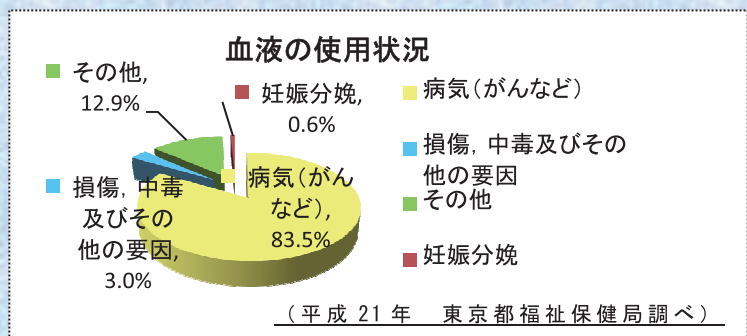
### ○ 広島県の献血状況

10代，20代，30代の献血者数が減少しています。



### ○ 血液の使用状況

交通事故など不慮の事故での使用はほんのわずかで，ほとんどは，がんなどの定期的に輸血が必要な患者さんへの輸血・治療に使われています。



## ○ 血液について

血液は、栄養や酵素を運ぶ、出血を止めるなど生命維持に欠かせない役割を担っていますが、病気で健康な血液をつくりだすことが出来なくなるなど、血液を必要とする人がたくさんいます。

広島県では、毎日、がん治療などで定期的な輸血を必要とする人が300～500人に達しています。

しかし、医療が発達した今日でさえ、血液を人工的につくることも長期間保存することもできません。そのため、毎日一定量の血液を確保する必要があります。

なお、献血をするには、健康面・体力面等の基準があります。日頃から食生活を含めた健康づくりが重要です。

## ○ まひろちゃんのお父さんの手記

### まひろちゃん献血

まひろの父（竹原市 山元 忠良）

あなたは、献血で採取された血液の用途を知っていますか？そして、その血液が全国的に不足し危機的状況だということを知っていますか？献血で採取された血液の大半（約9割）はガンなどの病気の人に使われています。僕がこの現実を知ったのは・・・・・・。

僕の娘、茉央（まひろ）は3歳の時急性骨髄性白血病を患いました。約2年間の闘病生活の末2009年7月11日に5歳で天国に旅立ちました。白血病は血液のガンです。健康な血液が生まれてこない病気です。血液には寿命があり、人間は血液がないと生きていけません。よって、健康な血液が生まれてこないまひろは、生きるため誰かから血液を分けてもらうしかなかったのです。約2年間の闘病生活で約200人の方から血液を分けてもらいました。輸血を受けるまひろの側で僕が思った事は、献血をしてくれた一人ひとりにお礼がしたい、恩返しをしたいでした。僕ができる恩返しは、献血の必要性、血液不足という現実を一人でも多くの人に伝えていく事だと思いこうして筆をはしらせています。僕とまひろのこのメッセージを目にしたあなたが誰かに伝えてくれたら大変嬉しいです。そんな中、「竹原市を献血の町に！」と行動を起こしてくれた人達があります。全国的な血液不足からみれば、小さな活動ですが、続けていくことに意味があると思います。あなたの力も貸して下さい。

僕の夢は・・・・・・献血者が増え、血液不足が解消されるよう活動を続け、あの世でまひろと再会した時に、「お父さん！よく頑張ったね！いい人生だったね！」と言ってもらえることです。

#### 「まひろちゃん献血」について

山元氏(まひろちゃんのお父さん)は、平成21年7月にお嬢さんの「まひろちゃん」を急性骨髄性白血病で亡くされました。

まひろちゃんの闘病時、山元氏の御友人が、不足する血液を少しでも補う為、竹原市の少年野球大会において、献血を実施されました。その後も、まひろちゃんの闘病生活中に約200人の方から輸血用血液の提供がありました。

山元氏は、「一人ひとりにお礼がしたい、恩返しをしたい」と思われました。

しかし、輸血用血液には名前はなく、お礼を言う事は出来ません。

そこで、山元氏は、まひろちゃんのような病気で輸血を必要としている人達が血液不足で困らないようにと、献血推進活動を続けてこられました。

そして、その活動は、「まひろちゃん献血」と名づけられ、現在、山元氏が代表として活動しておられます。